



大槌

広報おおつち NO.570

漁業復興へ二つの拠点
白澤みさきさんインタビュー
「ひょうたん島日記」



11

2013. 11. 5



大槌湾に停泊する「新青丸」＝10月4日



「牡蠣ノ星」プロジェクトのポスター



立地協定書に調印したヒューマンウェブの吉田秀則社長（右）と碓川豊大槌町長（左）＝10月9日、大槌町役場

漁業復興へ二つの拠点

カキ料理店の進出と研究船の母港

漁業復興へ向けて二つの拠点が町にできることになりました。カキ料理の「オイスターバー」を全国展開するヒューマンウェブの進出が決まり、三陸沿岸の海洋環境を調査する学術研究船の母港になりました。漁業は町の産業の柱。関係者は大きな期待を寄せています。

大きく育て「牡蠣ノ里」

「ヒューマンウェブ」が進出

カキ料理を提供する「オイスターバー」を全国展開する東京都中央区のヒューマンウェブが大槌町への進出を決め、10月9日、町と立地協定書を交わしました。「大槌 牡蠣ノ星」プロジェクトとして、加工場とレストランを併設した複合施設を建設し、2015年度内の稼働をめざします。業界最大手の進出で、カキの加工、販売の一大拠点になることが期待されています。

ヒューマンウェブは2000年に設立されました。資本金が6250万円で、東京、大阪、名古屋、横浜などにオイスターバーを23店舗持っています。2006年から2007年にかけて流行したノロウイルスで大きな打撃を受けたため、現在、大槌産を含めて全国の産地から集めたカキを、広島県呉市に造つ

たカキの浄化殺菌施設を通し、ほぼ無菌にして出荷しています。ろ過し、紫外線で殺菌した海水に36～48時間浸し、浄化させ、安全性を確保するシステムです。取扱量は年間、600万個で、直営店では、生ガキのほか、カキフライなどに加工し、提供しています。

「大槌 牡蠣ノ星」プロジェクトは、大槌に、広島よりも規模が大きく最新鋭の施設を造り、東日本の拠点にする計画です。「産業」「雇用」「集い」をキーワードにし、100～150席のレストラン&カフェ、カキ浄化殺菌施設と加工場、子どもが遊べる広場などからなる複合施設をめざします。施設は安渡地区の県有地4500平方メートルに建設され、従業員34人は、全員、地元から雇用する方針です。県外からも客を呼び寄せ、年間売上高は約10億円を見込んでいます。

ヒューマンウェブの大槌進出には、ノロウイルスで客が激減し、倒産の危機にあった時に、大槌産のカキに救われたという経緯があります。東北マリンサイエンス拠点形成事業は、東北が代表機関、東京大気海洋研究所と海洋研究開発機構が副代表機関です。新青丸の母港には、その東京大気海洋研究所がある大槌町に決まりました。大槌漁港は復旧工事のために接岸できず、岩手県が今後、接岸できるように整備します。

お披露目式では、海洋研究開発機構の平朝彦理事長が「変化した生態系を理解して、漁業復興のお役にたちたい。未長く愛されることを願う」とあいさつし、大槌町の碓川豊町長は「国際海洋研究都市を築き、交流人口を拡大させたい」と期待を込めました。

震災で激変した三陸沿岸の生態系を調査するために建造された「新青丸」のお披露目式が、10月4日、母港の大槌漁港でありました。科学技術の粋を凝らした最新鋭の学術研究船で、沿岸漁業の復興支援が期待されています。新青丸は独立行政法人海洋研究開発機構が、老朽化に伴って退役した淡青丸の後継船として建造しました。震災後の三陸沿岸の海洋環境を研究する文科省の東北マリンサイエンス拠点形成事業推進の役割を担います。新青丸は全長66メートル、幅13メートル、1629トン、航海速度13・2ノットで、建造費は約110億円。360度回転できる自動定点保持装置や、音波を使って海底の地形を測定する装置があります。さらに、遠隔操

三陸の海の復興へ研究船「大槌母港の「新青丸」



船体には母港の「大槌」の名が記されています